# 宝交早生苺プロジェクト

とにかく宝交苺を食べてみたい！

2025/2/20【B班】

# 宝塚大会議：宝交早生苺プロジェクトの立案

宝塚生まれの宝交早生苺は甘くておいしい

フードロス、食品リサイクル

環境学習

つなぐ

環境班メンバー
- （株）セブンーイレブン・ジャパン
- （株）阪急阪神百貨店（エイチ・ツー・オーリテイリング（株））
- （株）エイチ・ツー・オー商業開発（エイチ・ツー・オーリテイリング（株））
- 大阪ガス（株）
- 甲子園大学
- 銀座ミツバチプロジェクト
- 宝塚市

# 宝交早生苺とは

兵庫県農業試験場宝塚分場で開発（1957年）され、1960年に発表された露地栽培用品種

特徴

- 甘味と酸味のバランスが良く、果皮は柔らかい
- きれいな円錐形をしている、当時のイチゴと比べると甘味が強く、酸味が少なかったことで、瞬く間に人気品種となった。
- 1980年代のイチゴ生産の5割以上は宝交早生であった。
- しかし、果皮が軟らかいため輸送時に傷みやすく、次第に市場には出回らなくなっていった。
- 現在のさまざまなイチゴ品種に形質が受け継がれている。

# イチゴの露地栽培

3月　　5月　　10月　　2月

開花　　結実　　花芽形成　　休眠

土作り

苗作り

# とにかく宝交苺を食べてみたい！
# 宝交早生苺を軸とする食の循環PJT（2023年版）

# これまでの実施状況

2024年3月（銀座ミツバチ）
小学校への環境学習・文化芸術センターに菜の花の植樹

5月苺の収穫と光明小学校3年生への環境学習（甲子園大学3年生）

スタート

2023年12月
宝塚市職員と菜園実習場にて苺の苗植え

5月宝塚阪急周辺プランタにコンポスト堆肥を利用してグリーンカーテンの設置

7月フードロスチャレンジデイズin宝塚
１回目　堆肥は「花のみち」花壇に利用

2024年11月
光明小学校3年生と菜園実習場にて苺の苗植え

10月フードロスチャレンジデイズin宝塚　2回目
堆肥は苺栽培に利用

松岡による環境学習
と宝交早生苺の試食

甲子園大学栄養学部栄養学科
「食と地域の実践演習」履修
学生による食育

# フードロスチャレンジデイズ
# in宝塚　１回目

# フードロスチャレンジデイズ
# in宝塚　２回目

# 食とわ！　フードロスチャレンジデイズ in宝塚　２回目

# 甲子園大学菜園実習場での苗植え体験（光明小学校3年生）

光明小学校にも苗植え

# メディア掲載

| 掲載場所 | 掲載内容 |
| --- | --- |
| no+e2024 | 宝塚生まれのいちご？コンポスト堆肥で宝交早生苺を育ててみよう！社会実験プロジェクト「Tsugu.」（2024/11/23） |
| 神戸新聞（朝刊） | 宝塚生まれのイチゴ「宝交早生」小3生苗植え環境考える：甲子園大学と企業が協力、堆肥作りから取り組む（2024/11/30） |
| no+e2024 | 大学×小学校×チャレンジデイズ＝コンポスト堆肥で宝交早生苺を育ててみよう！社会実験プロジェクト「Tsugu.」（2024/12/1） |
| 神戸新聞（朝刊） | 食品廃棄物削減へ生ごみ堆肥化：$H_2O$、住民と取り組む資源循環、川西・宝塚拠点、事例紹介（2024/12/4） |
| 毎日新聞デジタル Yahooニュース | 「宝交早生」で食品ロス削減を考える兵庫・宝塚生まれのイチゴ（2024/12/10） |
| 毎日新聞（朝刊） | イチゴで考える、食品ロス 生ごみの堆肥使い「宝交早生苺」栽培 大学・企業・市民が連携「輪を広げたい」（2024/12/12） |
| no+e2024 | 「宝交早生苺プロジェクト」に取り組んでいます🍓宝塚市制70周年記念（2024/12/17） |

# 今後の取り組みと課題

2025年2月、3月　苺の栽培（追肥・マルチ張り・防鳥ネット）
5月上旬　収穫イベント
（フードロスチャレンジデイズ２回目・小学生）

以降　今年度と同様の取り組み（継続性）

グミ

課題：今年度は、勢いでスタートしたが、
・持続的に活動を行うためには予算・人員・栽培場所
（特に市民参加の仕組み）が必要
・子どもによる環境学習発表会などの企画
・収穫した苺の利用（加工品や宝塚の特産品の開発）

ムース

本学学生作